

花巻市社会教育委員会議（会議録）

日 時 平成30年3月20日（火）午前10時00分～午後0時

会 場 花巻市生涯学園都市会館 3階第2・第3中ホール

出席者 委員出席者16名 福盛田弘委員、佐々木勝男委員、堀合範子委員、遠藤敦士委員、久保田廣美委員、高橋和恵、石橋恕篤委員、市川浜委員、太田達久委員、佐藤寛委員、伊藤晴二委員、菊池清委員、佐々木さつき委員、佐々木繁夫委員、藤本眞津子、門馬優子委員、

委員欠席者 4名 小田島聡委員、吉田靖雅委員、小原幸子委員、久保田武司委員

市側出席者 5名 市川生涯学習部長、中村生涯学習課長、同課上野主任主査兼生涯学習係長、同課藤村上席主任、同課飛澤主任

報道機関 1名 花巻ケーブルテレビ 柴田

傍聴者 0名

次 第 1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 議長、副議長選出

5 議 題

花巻市生涯学習振興計画の進捗状況について

6 その他

7 閉 会

1 開会

（事務局：上野主任主査兼生涯学習係長） ただいまから平成29年度花巻市社会教育委員会議を開催します。

2 あいさつ

（事務局：市川部長） 今日は年度末の大変お忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。また、今回は社会教育委員をお引き受けいただきありがとうございます。平成28年3月に第2期生涯学習計画を策定いたしました。今回はその状況についてご意見をいただきたいと思っておりますし、これに限らず社会教育、また生涯学習という意味では幅広くご意見もいただければと思っております。生涯学習の分野では図書館の建設というものが大きな課題となっております。今年度図書館の基本構想を作り市民の皆様にも発表した段階となっておりますが、来年度以降もう少し中身を詰めまして、場所・経費等を含めた基本計画を策定したいと考えております。図書館のほかにもこの生涯学園都市会館、あるいは文化会館の老朽化等の課題もございます。スポーツ施設も含めると生涯学習・社会教育施設というものは膨大となっており、施設の在り方についても今年度、市全体の施設管理を検討していく予定となっております。そのあたりも含めご意見をいただければと思いますので、本日はよろしく願いいたします。

3 委員紹介

(委員の自己紹介及び事務局職員の自己紹介)

4 議長、副議長選出

議長・副議長の選出は花巻市社会教育委員運営規則の第6条の規定により委員の互選。

事務局に一任との声があり、事務局案として議長に石橋恕篤委員、副議長に市川浜委員を提示。

(委員一同) 異議なし。拍手多数

議長、副議長あいさつ

(石橋議長) ただいまご指名いただきました石橋恕篤です。先ほども申し上げましたとおりこのような会議は私不慣れでございまして粗相ばかりでございます。この度は市川副議長さん、それから委員の皆さま、事務局の方々などのご協力を得ながら、会議を円滑に進めていきたいと思っておりますのでございます。いろいろとご迷惑をかけるかもしれませんがよろしくお願いいたします。

(市川副議長) ただいま会場の皆様のご指名をいただきまして副議長の席に就かせていただきます。議長を補佐してまいりたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

5 議題

(石橋議長) 議事は、生涯学習振興計画の進捗状況についてということで、事務局からご説明をお願いいたします。

花巻市生涯学習振興計画／主な事業の実施状況及び第二期花巻市生涯学習振興計画にかかる成果指標配布資料について説明

(石橋議長) ありがとうございます。ただ今、説明がございましたけれども、振興計画についてご説明をいただいたのですが、項目が広がっておりますので、生涯学習振興計画の基本施策にある、1. 生涯学習機会の充実、2. 青少年の権限育成の推進、3. 国際交流の推進に分かれておりますので、1個ずつやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員一同) 異議なし

(石橋議長) では、最初に生涯学習機会の充実ということで進めてまいりたいと思っております。ご質問がある方は、挙手をしてお名前とそれから発言というふうにさせていただきたいです。どなたかご質問ございませんか。

(佐々木勝男委員) 生涯学習機会の充実(2)のところのふれあい出前講座を見ていきますと、減ってきているところがあります。講座数の減少の理由は主にどんな点なのか教えていただきたいです。もう一つは、地域生涯学習担当者研修がございしますが、これは私非常に大事だと思っております。これは各地域の自治公民館で生涯学習関係の活動をしております。そういう時に、地域の中心となるコミュニティ会議で同じような

指導している方がいて、その方から自治公民館の指導をいただきながら進められていけば非常にいいなと思っている。特に私の地域では指導者の跡継ぎ対策が非常に頭を痛めているところがございます。そういったところと関連して、指導者がうまくリンクできればいいなと思ったところがございますが、この2点についてお願いいたします。

(石橋議長) 今ご質問いただきました、ふれあい出前講座についてと地域生涯学習担当者研修についての2点についてご質問がございました。これについては、事務局いかがでしょうか。

(事務局：中村課長) はい。ふれあい出前講座の講師につきましては、こちらでもかなり少なくなっていると思いますので何とか思っているところがございます。まずはご高齢になった方が辞めていく、それからお声がかからなかったということで辞めていく方もいらっしゃるようです。それから、新しい方ということで、例えばシニア大学に入っている方などで講師にして良いのではないかとの方々をと思っているところですが、講師は遠慮したいという方も多く、人前での活動が嫌な方もいらっしゃるようです。私どもも門戸を広げて募集をしているところがございますが、なかなか見つからないということです。そういう方がいらっしゃればどんどん登録していきたいと思っております。そうしますと、講座を受ける側も内容が多種多様であれば利用があるのではないかと思っているところであります。こちらも正直言うと苦慮している部分がありますので、情報がありましたら教えていただき、こちらからアタックしていけると思っていますので、よろしくお願いいたします。

それから、地域生涯学習担当者研修については、コミュニティ会議へ生涯学習をお願いしているという経緯がございましたので、地域でいかに生涯学習を進めていくかということで研修が必要ではないかということで始めた事業でございます。何を勉強したいかと色々とコミュニティ会議になげかけて要望をとるのですが、なかなか上がってこないという現状で、今回は生涯学習の講座のやり方ですとか、それから、著作権の関係もあって法律的なことも勉強させていただいたところがございます。それを自治公民館のほうへ反映させていただいているかということについては、そこまで追跡調査をしておりませんのでわかりませんが、地区のコミュニティ会議の職員の皆さんが勉強できることを考えてやっているということがございます。

(石橋議長) 佐々木委員さん今の説明でよろしいでしょうか。

(佐々木勝男委員) 講座のところの関連ですが、私のほうでは郷土史講座をよくやっておりますが、講師は花巻史談会の方をお願いしているところがございます。そういう方からお話を聞いていると、史談会でも高齢化にともなって会員が減少していると、主な原因を史談会の方とお話すると、活動を支援していく体制があったほうがいいのではないかとことをずっと感じているらしいです。そういったことから、できれば史談会に限らず色々な分野のところの育成に力を入れてもらえればいいなと感じているところがございます。

(石橋議長) ありがとうございます。他にご意見はある方はいらっしゃいますか。はい、どうぞ。

(菊池清委員) 菊池と申します。大変たくさんの方の事業本当にお疲れ様です。この事業ですが、アンケートをたくさん取られているということもありますが、丸を付けるだけだとそれしか見えないのですが、それ以外の、市民の声、例えばこういうことをしたいとかという声は実際あるものかということが一つです。それから、ふれあ

い出前講座とかいろんなものを題材としていて苦慮していると思いますが、こういうものがあつたらという声はないのでしょうか。

(石橋議長) はい。今、アンケートと市民講座についてのご質問がございましたが、それについてはいかがでしょうか。

(事務局：中村課長) 市民講座につきましては、やりたい講座についての声はいただいております。例えばガーデニングはずっとやっていますが、順番待ちをしている状態でございますので、引き続きやるということになっております。市民講座を受講した方々と懇談会を行っております、続けてほしいというものについては続けておりますし、新しい意見も取り入れてやっておりますが、指導員の数も限られているところでございますことから、全部することは難しいので、その中で考えてやっているところではございます。

(石橋議長) ありがとうございます。それでは、佐々木委員。

(佐々木繁夫委員) 佐々木繁夫と申します。聞きたいことは1点です。花巻市では生涯学習をどんなふうに捉えているかをもう一回確認しておきたいと思っております。前もお話ししたかもしれないのですが、例えばなぜそう思うかという、A3の資料の事業の実施状況を見てみると、ほとんどが市やコミュニティ会議が意図的・計画的にやったものの数値です。評価する場合は数値も大事ですが、生涯学習は地域社会あるいは学校が意図的・計画的にやるものはもちろんのこと、個人が行う学習、スポーツ、どこかに書いてありましたが、生涯学習計画3ページにあるように、4行目に書いている「個人が行う日常のスポーツ活動、文化活動、趣味・レクリエーション活動などもすべて生涯学習です」とあります。何を言いたいかという、市が主導してまなび学園や振興センターでやることも大事ですが、個人や少人数のグループも見えないところで相当継続的・計画的にやっているのではないかと勝手に想像するのです。ですから、生涯学習をやっている小さなサークル、団体の数値が入っていない気がするんです。ですから、生涯学習団体、サークルの集まりというか、この数値に入らないような小さなグループも色々主体的に活動をやっていると勝手に想像するんです。ですから、見えないところに目を入れれば、生涯学習を個人でやっている活動にも光を当てることができるのではないかと勝手に想像するんです。市内にはどんなサークル、団体、個人があるのか実態を調べるのは大変だと思うのですが、隠れたグループ、団体を発掘、あるいは情報、そんなのあるんだったらこっちに行きたい、あるいはこっちに行きたいけど市に行きたいとか、選ぶのは個人なので、そういう隠れた団体を発掘、みんなに教えてほしいと思うんです。一気には無理だと思うので、今年度は大迫地区とか笹間地区とか光を当てながら、確かに広報では取り上げているんだけど、大々的に取り組んでほしいというのが、私個人の考えです。

(石橋議長) ありがとうございます。非常に基本的なご質問でないかと思うんですけども、生涯学習の意義と申しましょうか、そういうふうなことについてのご質問でございますが、その点についてはいかがでしょうか。

(事務局：市川部長) 生涯学習はご承知のとおり組織だってやる社会教育、それよりも広い意味で個人の趣味や通信教育、文化活動、レクリエーションも入ってくるということで、非常に幅が広い範囲です。その中でこの生涯学習振興計画を作る際に1ページから2ページにかけてが計画の位置づけということで、花巻市のまちづく

り総合計画の中の人づくり分野に関するところの中で、スポーツや学校教育もあるわけですが、それは別にしてまとめたのがこの生涯学習振興計画ということです。おっしゃるとおり、これに書かれていない部分で生涯学習はたくさんあるというふうに思っております。その意味で最初にご挨拶したとおり、これを基本としながらそのほかのご意見をいただきたいと申し上げました。具体的には個人やサークルでやっているものをどの程度把握しているのかというと、今年あっても来年ないものもあるわけです。そこまで毎年調査すべきかということとそこまでではないのではないかとということです。しかしながら、情報としてほしいというご要望もあるわけです。そういうことから、ある程度、まなびガイドというホームページで紹介したりなど、情報は発信しています。広報でもサークルを発信しています。あとは振興センター単位で活動しているサークルさんもたくさんございます。そこまではやはり把握できておりません。自治公民館で活動しているサークルもたくさんございますが、地域振興、地域づくりのためにやっているものもございます。それを全部、市民に知らしめるべきものかということとそれほどもないと思っております。そのあたりは難しいのですが、紹介できる時は紹介していきたいと思っております。

(石橋議長) ありがとうございます。市川部長からのお話でございますが、佐々木委員さんよろしゅうございますか。はい、そのほかに、門馬委員さん、どうぞ。

(門馬委員) 今の佐々木委員さんのご質問と関係があると思えますけれども、今、私たち自主的な活動をしているグループですが、先日、市のほうから、生涯学習課からか地域振興課のほうでしょうか、NPOの団体が地域で活動している各種団体の調査を委託されたということで簡単なヒアリングというか面接をしてお話をしました。その際に、10年ほど前に市のほうでいろんな団体を網羅した写真入りのパンフレットみたいなものがあったようです。それが10年間更新されていなくて、もちろんのこと、なくなる団体もあり、代表者の方が変わったりということで、10年間は長いので、その間、何も手を入れられていなかったようで驚いたのですが、そういうことで、生涯学習だけでやるのは大変なことをNPOの団体に請け負ってやられたと思っていたのですが、今のお話だと生涯学習課ではないようですけれども。そういうふうにして人手がかかるものはNPOにお願いするのもいいと思いますし、窓口として生涯学習課に聞けばこういうことがありますよという、機能は持っていていただきたいと思えますし、受け身で市で提供してくれる講座に参加するのは、あくまでも受け身だと思うんですね。本当は講座の中で人材育成を図るのが本来の生涯学習講座の意味かなと思うのですが、そういう意味でも、自分のニーズに合った活動の情報をもっといろんな意味で、広報見れば知ることができるのですが、網羅したものを持っていただくと非常に市民がこういうふうな活動をしたいという時の一助になるのではないかと思います。資料編の7ページに「生涯学習したいと思うと答えたあなたへ」という設問がありますが、「生涯学習活動をしたいと思う理由は何ですか」という中で、私の周囲の人なんかの話を聞きますと「みんなの中に入って交友を深めたい」「みんなの集まる場に出て行って生きがいをつかみたい」というそういう意見がかなりのウエイトを占めていると思います。その他の中に入っているのかもしれませんが、具体的な知識や技能を習得するためというものもあるのかもしれませんが、みんなが集まる場に出て行って自分の持っているものを深めたいとか、交流した中で新たなものを見つけないかというものが結構大きな理由になっているのではないかと思います。私の感想です。

(石橋議長) はい、ありがとうございます。今のはご質問ではないということでよろしいでしょうか。

(門馬委員) ないということではないんですけれども、網羅したものを整理する考えはありますかという質問にしたいと思います。

(石橋議長) はい。今の質問についていかがでしょうか。はい、市川部長さんどうぞ。

(事務局：市川課長) 紙だとお金と手間がかかるので、冊子にするだけでも相当な事業になってしまいますから、今は数年前から「まなびガイド」というホームページを作って更新しやすくしております。紙で書いたものよりは細かいところまで載ってないのかもしれませんが、把握するつもりでやっております。また、相談いただければ当然、団体紹介、サークル紹介もやっております。生涯学習課でもやっておりますし、この館（まなび学園）でもやっておりますので、そういう部分については気を付けてやっていきたいと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。門馬委員さんよろしでしょうか。

(門馬委員) ありがとうございます。

(石橋議長) ありがとうございます。次、ご質問の方、はい、福盛田委員さん。

(福盛田委員) はい、福盛田と申します。ふれあい出前講座についての要望でございます。今、私も講師登録しております、4月から活動したくても4月からのバスの利用が市長決裁が出ないということで、コミュニティ会議から連絡がありまして、4月から山野草の花のいい時期なんで、4月でも行こうと思っていたのですが、4月ではバスの決裁が下りないということでしたので、5月からお願いできないかといわれました。本当は4月の中旬あたりから実施したいと思っていたのですが、本当は4月から次年度になるので12か月はいいのかなと思ったのですが、5月からとなると11か月ですよね。冬の時期は山野草できないので、要望するところは市長決裁は4月からできないものなのか、もし、できればお願いしたいと思うんですが。

(石橋議長) はい。市川部長。

(事務局：市川部長) 4月の2、3日だとなかなか厳しいかもしれませんが、できないことはないと思います。コミュニティ会議の事業ですよね。コミュニティ会議の事業の共催でバスを出すことができるんですけれども、コミュニティ会議から今年度の事業計画が出てこないダメなんですけど、今年度の総会が終わってないという可能性もあります。コミュニティ会議から出てきて確定できるのであれば決裁はそんなにかかりません。頑張ってくださいから。

(福盛田委員) 4月初めではありませんので、中旬から後半にかけてです。各コミュニティ会議の総会はほとんど3月いっぱい終わると思いますので、そうすると4月の頭には計画はでると思います。コミュニティ会議からできないと言われたので、確認の意味と要望も含めてということでよろしく願いいたします。

(石橋議長) はい。ありがとうございます。要望ということでしたけれども、その点も含めて回答いただきありがとうございます。その他、ございませんでしょうか。佐々木さつき委員。

(佐々木さつき委員) はい。お聞きしたいことが2点ほどあります。(2) 番の丸3つ目まなびキャンパスカード事業についてなんですけれども、対象施設が20施設ということなんです、一番利用者数が多い施設、分かれば結構です、教えていただきたいです。それからもう1点、同じキャンパスカード事業ですが、前年度と比べて4,500人ほど利用者数が減っていると、どうしても生徒児童の数も少なくなっている、だんだんと利用者数が減ってくるのは避けたいと思うんですけれども、周知方法、こういうものがありますよとかこういうことが利用できますよというのを、わかる範囲で結構です。教えていただければと思います。

(石橋議長) 佐々木さつき委員からのご質問2点ございましたが、これについてはいかがでございましょうか。

(事務局：中村課長) 1番多いのは市民プールの利用です。4,746人ほど使っております。数字の関係ですが、今年度の分についてはまだ、全部終わっておりません。鉛スキー場等の部分は入ってございませんので、その部分だと考えてございます。周知方法につきましては、学校を通じて行っております。また、広報でも周知しております。

(佐々木委員) 子供たちだけではいけないと思うので、親に周知が行き届くというのがベストだと思いますので、私も気を付けてみていきたいと思っております。ありがとうございました。

(石橋議長) はい、佐々木繁夫委員。

(佐々木繁夫委員) 一つだけです。さつき部長が言ったように何年か前にいろんな団体があったと聞いたのですが、お願いなんです。市、コミュニティ、個人、あるいは小サークルでやっているのを一覧表というか、パソコン内に入れて、消える団体もいるよじゃなく育ててほしいんですが。市役所かまなび学園でA4の紙一枚に入れてもらおうと、何をやっているか、会場はどこか、対象はとか全部わかるんですね。そうすると、自分の地域を超えて学びたいという人がいっぱいいると思うんです。どこの市町村か忘れたのですが、それを見たら全部わかるんですね。市が主催、地区が主催、個人でやっているもの。あまり難しいと大変だし、年を取るとパソコン使えない方もいるし。だから、市役所などに紙を置いていただいて、それに書くとホームページに入れていただくようなシステムがあれば、興味関心ある人が見に行くのではないかなと。ですから記入者は自分の責任で書くわけだし、あと、だまっていれば更新しないじゃなくて、更新するかしないも含めて届け出るという。やりたくない団体は当然やらなくていいと思います。希望する団体はそういうものがあると、今ネット時代なので興味関心ある人は行くのではないかと考えております。

(石橋議長) ありがとうございました。要望ですね。他にございませんか。

(佐藤寛委員) 佐藤寛と申します。よろしくお願いたします。この振興計画にかかる成果指標のところ、指標1. 日ごろ学習に取り組んでいる市民の割合という項目があるんですけれども、先ほど佐々木繁夫委員がおっしゃった個人の趣味のようなものを生涯学習と捉えて、答えられるような質問になっているのか。その辺の聞き方によって指標は変わってくると思うんですね。計画の前段のほうに高齢者の割合が多くて若者が少ないと回答しているんですが、例えばざっくりばらんな話で、高校生がカラオケの練習に行ったとすると、個人のカラオケ

練習は生涯学習かどうかということになってきて、その質問の仕方によって指標はかなり増減するのではないかと、もっと言うと花巻市さんの施策も頑張っただけで人数を増やせば数値が上がってくるのかというと簡単にそうはいかないのではないかと考えてみておりました。今、29年度で35.3を3年後44にするのはかなりハードルが高いのではないかと考えております。その辺のところはどういうふうな質問をしてどういうふうな回答をしているのかを詳しく教えていただければと思います。

(事務局：市川部長) まったくその通りでして、質問の捉え方は個人によって全然違うと思われま。市民アンケートは生涯学習だけでなく、花巻市全体としてアンケート調査をしています。生涯学習については、「あなたは、学習活動(まなび学園や生涯学習都市会館、総合支所、振興センター、図書館、記念館、博物館、市民の自主活動グループ、民間のカルチャースクールなどが開催する講演会、講座や教室)にどの程度取り組んでいますか」という設問なんです。これでも捉えられない趣味の分野が入っているのかというと微妙だと思います。これは今回の総合計画の中で、かなり前からこの設問でやっているわけですから、次の総合計画にならないと変えられないということです。それから目標値を高く設定したのですが、率直なところ厳しいと聞いております。ただ、それに向かって色々やって行きたいと聞いております。前回この計画を作った時に佐々木繁夫委員からご指摘を頂いた部分ですが、数値目標をいっぱい立てるのも良いが数値で測れない部分もいっぱいあるのではないかとということで、まったくその通りだと思います。しかし、数値がないと言葉だけで表現できるかという問題があると思います。実は前の計画ではもっと目標値があったわけです。それをひとつずつ達成できるできないとやっていたのですが、そこも数字だけでいいのかという課題をいただき、今の計画は3つに絞った形です。ということで、数値はありますけれども、そういった中でも体感・感覚的なものは大切ではないかなということでやっていきたいと聞いております。ただ、この数値は厳しいかなと聞いているところでございます。

(石橋議長) ご説明ありがとうございます。ほかにご説明ございませんか。福盛田委員。

(福盛田委員) 福盛田と申します。今、ちょっと市川部長さんが言ったものと関連事項なのですが、私も市の行政評価委員会委員として何年かやっているのですが、今のアンケートの取り方ということで、何年も前から同じ質問でパーセントを上げるためにとか、統計の取り方が変わると困ると言われていましたので。再三指摘はしているところでございますが、なかなか改善されないでそのまま踏襲されながらやっているようです。総合計画が変われば質問の方法が変わってくるのかなと聞いております。そういったところで、評価委員会でもこの部分については指摘をしている状態でございます。

(石橋議長) ありがとうございます。他にございませんか。なければ、1番の生涯学習機会の充実については終わらせていただきまして、2番目の青少年の健全育成の推進についてご議論を賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。非行防止とか青少年活動の推進ということがその中で項目が設けられているところですが、いかがでございますか。はい。佐藤寛委員。

(佐藤委員) 佐藤でございます。花巻市さんの施策に関してということではなくて、人づくりという視点、青少年にスポットをあてますと、どの市町村でも人口減少、若者の流失、高校卒業すると都会に行き戻ってこないという状況がございまして、その中で高校生にどういうふうに地域参加をさせるかというのが一つのテーマになってございまして、当センターでも実践発表をさせていただいたところでした。そうしたところ、県内の全部の

高校に地域参加している事例の照会をかけたところ、公立私立合わせて13校の事例が集まりました。盛岡一校や黒北のような進学校はじめ地域の高校、実業高校様々あったのですが、その中で花巻農業高校さんからも出してくださって、「石鳥谷の夢 未来を語るワークショップへの協力の取り組み」、これは石鳥谷総合支所の事業のようなんですけどということでこれを行ったと。この事業は、花農に通う石鳥谷出身の子供たちが参加して、コミュニティ会議の方、支所職員の方などが参加されて非常にいい協議がされたというような取り組みを紹介されました。この資料やホームページにも載っているんですけども、ここにある施策以外に、先ほどどなたかが言われました他部局との連携、ネットワーク行政という言い方をすればいいのでしょうか、青少年を地域課題に関わらせていって、将来、一旦大学などで関東や首都圏へ行っても戻ってくるような素地を作っているというような、そういうものがこの事業に載ってくると私は今、求められていることなのではないのかなと考えておりました。これは意見でございます。

(事務局：市川部長) そうですね、この中には市が主催した事業しか載ってないということがありましてですね。例えば、副議長の市川さんがやられている青少年育成市民会議のキャンプ事業は花北青雲の子供たちが手伝ってくれたりとか、花農の子どもたちも手伝ってくれている事業もございますし、あとは、成人式実行委員会をやった子たちが地域に入ってもらおうとか、花巻市の未来を考えてもらうというような色々な活動をしている状況ですので、そのあたりも考えていきたいと思えます。

(佐々木繁夫委員) 実際難しいかもしれませんが、私もちょっと関わっていますが、青少年育成市民会議では、高校生を前面に出しながら、いつも花北青雲高校の生徒が多いときは20名近く集まっておりますが、そして市内の小学生を集めてジュニアリーダー育成のようにしてやって、高校生が生き生きとしているのを目の前にしてやっております。それから、同じように青年会議所も高校生を入れながら遠野に行ったりして活動していると。ライフセービングも色々やっているんですけども、独自でやるより合体しながら調整しながら同じようなことをやっているの、各種団体と合同でやる工夫はないものかと、実際調整するとなると誰かが仲立ちしないと難しいと思うんですけども、窓口みたいなものがあれば非常に助かるのではないかと思います。現実には企画部分から入るので難しいとは思いますが、お互いさまという部分で助かるのではないかと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。今の佐々木委員の意見について市側から何かございますか。はい。市川部長さん、お願いします。

(事務局：市川部長) 例えば青少年育成市民会議でおやりになっているキャンプ事業、市でやっているキャンプ事業もいろいろあります。一緒にしたほうがいいのではないかと、悩んだ時期もありました。人員は手伝ったりしています。ただ、高校生については、花巻市の事業は東高校の生徒を使ったり、石鳥谷でおやりになっているのは花北青雲高校を育成したりとか、歴史とか成立の違いなどもあります。あと多様化の良い面もあります。何もかもまとめればいいというものでもないと思います。出来るうちはいっぱいあったほうがいいかもしれないということもありますので、そのあたりは連携して様子を見ながら、ご相談しながら、こちらからもご相談したいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

(石橋議長) ありがとうございます。今のお話でよろしゅうございましょうか。ありがとうございます。ほかにご意見はございませんでしょうか。何か時間も押し迫っておりますので、先を急ぐようでも申し訳ございませ

んが、青少年の健全育成の推進についてのご議論はこのくらいにして、国際交流の推進についてのご議論に移りたいと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。はい。菊池委員さん。

(菊池清委員) 菊池と申します。どこの地域でも国際交流をしていると思うんですが、例えば子供たちが交流する。行く人はわかると思いますが、結局交流していることが周りにわからないということがいつも感じていることで、あちらからいらしても、ある程度は歓迎しますが市民は知らない。いつ来ていつ行ったんだろうということが経験上もありました。私は大迫で、ベルンドルフと交流をしているのですが、以前はいらっしやると市民の前で歓迎式をしたりしていたのですが、いつからかそういうことがなくなってしまった。子供たちもどういった人たちが行っているのかすらわからなくなってしまって、難しいのかもしれないのですが、市民を巻き込むような施策はないものかともいつも思います。多分、国際交流というと遠い存在だったり、自分に関係ない人もたくさんいると思うし、海外や語学に興味がない方もいらっしやると思いますが、ホットスプリングの方がいらっしやってるんだ、こっちからも行けるんだということがもう少し知らしめる方法がないのかということを考えているのですが、その辺についてはどうでしょうか。

(石橋議長) ありがとうございます。周知方法ですね。市川部長お願いいたします。

(事務局：市川部長) ご存じのとおりそういう傾向は強いですね。子供たちに関しては中学生がいれば、今は各学校で発表させていますので、いくらかはわかると思います。それから、国際フェア、12月ごろなんですけれども、交流センターで発表をやったり、行った人たち、来た人たちの交流を色々やっています。チラシや広報で周知はしているのですが、なかなか興味がないと行かないということはあるかと思います。各地域では大迫では大迫の歴史というかこれまでやってきたというのがあるので、ベルンドルフから来れば大迫は盛り上がりますけれども、ほかの地域はそうでもないということでもあります。市全体に広めようというのが課題であり、国際フェアをやったのですが、なかなか全市に広まらないということでもありまして、もうちょっと頑張らなきゃという感じです。広報もしているのですが、見る人は見るのですが、見ない人をどうしていったらいいのかということもあります。これからも広報活動は工夫して頑張っていきたいと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。ほかにご質問はございませんでしょうか。なにかご質問はないようですね。それでは、議事運営がまずくてなかなかご意見をいただけないようなところもあつたかに思いますが。あと、ありますか、伊藤委員さんよろしいでしょうか。

(伊藤委員) 伊藤です。生涯学習全体とおしての意見なり要望になりますがいいいでしょうか。まず、昨年度は特に芥川賞で宮沢賢治が非常にスポットライトを浴びていますので、宮沢賢治セミナーか何らかの形で「おらおらでひとりいぐも」「宮沢賢治の父」のような非常に関心が高まっているんですよ。本読んだけど意味が分からないという声もあるので、せつかく全国的に方言を含めた宮沢賢治が非常にスポットライトを浴びているので、何らかの形で取り上げて、タイムリーな問題として、できる範囲で取り組んでいただきたいというのが一つ。それからもう一つ、生涯学習については、いかにして輪を広めるか、新たな層をどうキャッチするかが大きな課題。年々高齢化して参加者が少なくなってくる。各コミュニティではそれに対応する仕方が非常に頭を悩ませている。なので、生涯学習のあり方、あるいは講師も含めて新しい視点、悩んでいる方々の担当者へ具体的な形で進めていただければ、各振興センター、コミュニティ会議でも、もっと新しい形の生涯学習ができるのではないかと、

そういうサディションとかあればいいなと思います。それから、もうひとつ、青少年のほうでびっくりしましたが、高校生の活動がとても素晴らしい。実は私は今日初めて分かったんです。こういう高校生の姿はもっともっと市民に知らせていいと思うんです。どうしても、中学校は部活で忙しいし、小学校は地域学習をしているがまだまだ弱い。高校生がいろんなことに取り組んでいる姿をもっと紹介して見せてほしいと思いました。以上です。

(石橋議長) ありがとうございます。全体的な観点からのお話しでした。藤本委員よろしくをお願いします。

(藤本委員) 藤本です。東和地区のことですが、生涯学習をしていくうえで東和町では今コミュニティーセンターが老朽化していて閉鎖しています。わかる範囲で結構ですが、今後の立て直しが分かればお聞きしたいです。というのは、小学校の子供たちが将棋をしているのですが、今まではその施設を利用してやっていたのですが、そこがダメになったので、今はちょっとした施設のロビーを開放してもらってやっている状況です。たまには、支所の会議室を借りてやっているようですが、できれば、コミュニティーセンターの状況をわかる範囲でお聞きしたいです。

(石橋議長) 東和地域の情報ですね。把握されている範囲で教えてほしいということでした。部長さんお願いします。

(事務局：市川部長) 東和のコミュニティーセンターは、直接は東和総合支所が予算を持って建設をします。来年度に一部の設計とかではなかったかなと思います。詳しくは東和総合支所に聞いていただければと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。ほかにはございますか。なければ、ここで、できるのであれば、今日議論になったかまとめた形で発表できますでしょうか。事務局のほうでできますか。ちょっと整理しないと難しいでしょうか。

(事務局：市川部長) それでは今の段階で一つ一つまだ整理できないので、ご意見ご質問でいただいた部分はきちんと整理して、来年度の事業へ反映させていただきたいと思っております。色々ございましたが、最後に伊藤委員さんからお話がありましたけれども、やはり生涯学習の部分で指導者が高齢化しているのと、どういう事業をほかでやっているのか、どういうサークルがある、あるいはどういう講座がある、指導者が他にはどういう人がいるのかという情報がほしいというニュアンスを感じましたので、そのあたりを少し整理して考えていけたらなと思っておりますし、地域の生涯学習でも、その点は、研修等もやっておりますけれども、指導者不足、どんなことをやっていけばいいのか、人が集まることでその方々が地域の後継者にもなっていくということもありますので、若い人を呼ぶようなことなど、地域とも協議しながらやっていきたいと思えます。以上です。

(石橋議長) ありがとうございます。それでは、本日の議題については論議されましたので、これで終了させていただきます。各委員、事務局の方々ご協力ありがとうございました。以上でわたくしの議長は終わります。

6 その他

(事務局：市川部長) 図書館の状況についてお話いたします。今年度、構想を作りまして大体のコンセプトを決めて、皆様にお示ししました。今後ですが、来年度30年度ですが、基本計画を作りたいと思っております。それは、大体の規模、場所とか、事業費とかを決めていきたいということでございます。その後、基本設計、具体的な設計に入ります。それは31年度以降と考えてございます。基本設計に入りまして、その後に、実施設計というもっと詳細な部分を決めていきます。そして建築というふうになりますので、ちょっとまだ時間はかかるという感じではあります。現在都市再生機構、URで図書館の立地場所、整備の仕方などを調査してもらっております。それらを踏まえまして、来年度、具体的にどこの場所にしようか、どういう方法、どういう規模で作ろうかというのを作りたいと思っております。皆様にもご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

(事務局：上野主任主査兼生涯学習係長) 事務局からは以上です。皆様方から何かございましたら。

(高橋委員) 次回の会議の日程は決まっているのでしょうか。

(事務局：中村課長) まだ日程等は決まっておりませんが、図書館についてもご意見をいただきたいと考えており、時期的なことはいつ頃とは言えませんが、是非よろしく願いいたします。

7 閉会